



歯科診療室だより

公立みつぎ総合病院

第6号

平成28年9月8日

7月22日広島県国民健康保険施設協議会歯科保健部会で「人生の最終段階における口腔ケア」と題して陵北病院坂口英夫先生を講師に迎え研修会がありました。

今でこそ普通に口腔ケアという言葉を使っていますが、「口腔ケア」という言葉はいつから使われ始めたのでしょうか？

1960年にバージニア・ヘンダーソンが「看護の基本となるもの」の中に終末期の病棟での看護の質を表すものとして口腔ケアが記載されたのが最初だそうです。しかし、最期の時を迎える人に医療を施すことを認めてもらうのが難しい時代であったようですが、命あるもの、いつかはその任を終えなければなりません。最期の時を迎えるまでなすべきことの一つに口腔ケアがあり、我々歯科医療人は、そのような人への尊厳ある口腔ケアを行わなければならないことを学んだ研修会でした。



保湿剤



“口が乾く“ということをよく聞きます。原因は唾液の分泌が少なくなっていることです。唾液が少なくなる原因は、病気、薬や年齢など様々です。そこで、口の中を潤す事を目的に開発されたのが保湿剤です。

大きく分けると写真上段のジェルタイプのもので下段のスプレータイプのものであります。

ジェルタイプは長時間、口の中に留まるため保湿時間は長く、スプレータイプは乾燥感があれば手軽に何度でも使用できます。

成分は水、グリセリン、キシリトールや薬用成分など各メーカーで違っています。味も甘いもの、味がしないものもあるいはレモン味など工夫がされて、口の中に入れても嫌な感じがしないようになっています。

最近では、看護や介護の現場にも保湿剤の使用が広がってきています。

使い方や必要な人は**歯科スタッフに相談**して下さい。

文責 診療部長 占部秀徳